

## 国語科

# 興味・関心を高める授業づくりについて

## —日常生活との関連を通して—

石川 嘉一

### 1 はじめに

平成18年12月に改正された教育基本法、またそれをふまえて平成19年6月に公布された学校教育法の一部改正により、義務教育の目的・目標が明記されるとともに、その達成のため「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない」と定められた(第30条第2項, 第49条, 第62条等)。これらの規定は、学力の重要な要素が、

- ①基礎的・基本的な知識・技能の習得
- ②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
- ③学習意欲

であることを明確に示すものである<sup>1)</sup>。

本校の実態を見てみると、昨年度実施した学習全般についての実態調査から、関心・意欲を高めることが課題であることがわかった。また、本年度5月に実施した国語科の学習についての実態調査からも、国語科の学習は大切に将来役に立つと感じてはいるが、必ずしも学習に意欲的に取り組めていないという実態が明らかになった。

学習に対する関心・意欲を高めるためには、生徒たちが学習内容を理解し、できるようになることが求められる。そこで、主体的に学び、粘り強く学習しようとする向上性や、自ら課題を見つけ解決しようとする力を育むとともに、なぜこの学習をしているのかなど学ぶ意義を見つめさせるこ

とが必要である。

そこで、本研究では興味・関心を高め、学習意欲の向上をはかる授業づくりの工夫について考察を行いたい。その際、学ぶ意義を見つめさせるため、特に日常生活との関連を通して考えていくこととする。

### 2 研究の方法(実践例1)

#### (1) 対象生徒

中学校2年生 41名(1クラス)

#### (2) 教材について

「論語」は、二千五百年ほど前に生きた孔子の言行をまとめた書物である。我が国でも古くから読まれてきており、ひとつひとつの短い文章の中に込められた孔子の思想に、影響を与えられた物事は少なくない。しかも現代においても生きる考え方が数多くあるため、生徒たちが興味を持って学ぶことのできる教材であると考えた。さらに、短い文章の中に込められた、ことばの持つ魅力が凝縮された表現を読み味わうことにより、ことばのおもしろさを学ぶこともできると考えた。

本単元の学習に関して、古典を学習することについて「楽しい」と回答した生徒は32パーセント、「役に立つ」は35パーセント、「現在とのつながりを考えることがある」は27パーセントであった(平成25年8月30日実施, 37名)。

指導に当たっては、できるだけ多くの場面で課題解決型の活動を取り入れた。まずペアで本文の読み方の予想をさせることにより、そこで生じた疑問をその後の授業で解決してゆくという展開を取り入れた。その後、音読レベルだけではなく、

孔子の発言がどのような場面で行われたのかという背景を想像させることにより、問題意識を持って状況を捉えさせた。現代と比較させるなど、適切な手立てを講じることにより興味を持たせて指導した。そして、まとめとして学んだことばについて発表させた。

孔子のことばの持つ含蓄の深さを発見するおもしろさと、学んだことばを使って表現するおもしろさを感じさせることをねらった。

### (3) 目標

- 現代に通じる教えが二千五百年前に述べられていたということに興味を持って学習に取り組もうとすることができるようにする。
- 論語に表れた孔子の考え方について、現代に生きる自分と比べて考えることができるようにする。
- 返り点などに基づく漢文の読み方について理解できるようにする。
- 論語に表れた孔子の考え方について触れ、どういった思いが込められているか想像できるようにする。

### (4) 授業構成 (全7時間)

- 第1次 漢文の読み方を学習しよう  
・・・2時間
- 第2次 孔子の伝えたかったこととその背景を考えよう  
・・・3時間
- 第3次 考えたことを交流し深めよう  
・・・2時間

### (5) 授業の実際

<第1次 漢文の読み方を学習しよう>

まず、一番はじめに教科書の「学而」の読み方(音読のしかた)を予想させ、ワークシートに記入させた。ここでは、「読めない、分からない」ということをまず認識させ、その後の「知りたい」という意欲につなげることが目的であるため、説明などはしなかった。「こ・いわく」などと読む生徒がたくさんいたが、中には「し」と読むことを知っている生徒もいた。そのことも、「自分も知りたい」という意欲にわずかながらつながったと考えられる。

その後、返り点や送りがな、置き字など基礎的な事項について学習し、読み方の確認をした。

#### 〔生徒の感想〕

- ・初めて読んだとき(予想)は音読みのところを訓読みとまちがえるのが多くなってしまった。読み方のルールをもとにまちがえずに読む。返り点を思い出す。
- ・論語の読み方は難しいと思った。次は意味を考えるので、読み方をきちんと覚えたいと思った。
- ・分かりやすそうな読み方でも、違ったりすることもあるのだと思いました。
- ・漢字を音で読むか訓で読むかの区別はつかないけど、どんな順で読んでいくのかはきちんとわかった。
- ・漢文の読み方の予想を大幅に外してしまったけど、読み方が分かった。

<第2次 孔子の伝えたかったこととその背景を考えよう>

教科書に載せられているそれぞれのことばについて、注も参考にしながら大まかな語句の意味について確認をした。そして、孔子は何が言っていたのかということ考えた。その後、孔子のことばは、どのような場面・背景のもとに発せられたのかということを考えさせることにより、問題意識を持った学習となるように工夫した。

#### 〔生徒の感想〕

- ・どんな場面かを考えるのが少し難しかったです。これから班活動とかで意見を言いあいたいです。
- ・孔子が言いたかったことの意味を考えることができました。孔子は、弟子のために色々な言葉を言ったのかな?と思いました。
- ・孔子は子貢に大切なことを教えていた。思いやりの気持ちは昔にも存在していて今でも大事な気持ちとして残っている。

<第3次 考えたことを交流し深めよう>

第3次では、孔子のことばに表れた考え方を、現代に生きる自分たちと結びつけて表現することを目標に授業を行った。

これまでの授業を振り返ると、「論語」で学習したことばは、単に昔のことばであるというだけで、なかなか生きたことばとして生徒たちに根付かせることができなかつたという反省がある。そこで、生きたことばにするために、古典の学習と今の私たちの生活を結びつけて、二千五百年前のことばが現代にも生きることを実感させ、古典を学ぶ意義の理解につなげようとしたものである。

授業では、「孔子のことばを現代で使える場面を考えよう」という課題を設定した。流れは、「場面設定」「そこで一言!」「どうなったか」という3項目について考える、というものである。

まず、中学1年生で学習した故事成語から、「矛盾」を取りあげ、このことばを生かすならどういう場面かという例を、上に挙げた流れに沿ってスライド(図1)で示した。場面設定は、生き生きとしたものにするため、「必ず会話を入れる」という指定をした。これは、実の場面により近づけることをねらったものである。

① 場面設定  
Aくんは、実カテスト前なのに、提出物がまだ終わっていないようです。Bくんは何やらお願いをしています。  
「ねえ、必修テキスト写させてくれん。」

② そこで一言!  
「これぞまさに『矛盾』じゃね。」

① 場面設定  
Bくんはそれに対してこう言いました。  
「だめよ。宿題は自分の力だけで考えてやらんと、自分のためにならんよ。」

② そこで一言!  
例…  
・「学んで思はざれば則ち罔し」って言うじゃん。」  
・「それは『怒』だよ。」  
・「まさに『四十にして惑はず』だね。」  
「『』の中に書き下し文を入れよう！」

① 場面設定  
「でもBくんも、答え写して書きよつたじゃん…。」

③ どうなったか  
Aくんは何も言えなくなっていました…。

図1 例示したスライド

注意点として、「論語」のことばを用いた短文を作るわけではない点、またことばの意味を書くということでもないという点を押さえた。

また、机間指導の中で、なかなか思いつけない生徒には次のようなヒントカード(図2)を配布し、考える手助けとした。

ヒントカード

『学んで思はざれば則ち罔し』  
→まねをするだけで自分で考えてやらないう身につかないよ! という場面を考えよう。

『思ひて学ばざれば則ち罔し』  
→自己流(自分だけがいいと思うやり方)だけで別の考え方・やり方を取り入れないと間違つたことが身についてよくないよ! という場面を考えよう。

『之を知るを之を知ると爲し、知らざるを知らずと爲す』  
→詳しく知らないことに対し、知つたかぶりをしているような場面を考えてみよう。

『己の欲せざる處、人に施すことなかれ』  
→じぶんのしてほしいくないことは、人にしないようにしよう! という場面を考えよう。

図2 ヒントカード

その後、できたものを班の中で回し読みし、相互評価をさせた。

〔生徒の作品1〕

① AくんとBくんは勉強をしていました。BくんがAくんに聞きました。「どうしてこの答えになるんだろう?」Aくんは言いました。「教科書にのっていただろう。だからこの答えでいいんだよ。」

② Bくんは言いました。「でも『学んで思はざれば則ち罔し』って言うよね。」

③ AくんとBくんは二人で考えました。

〔生徒の作品2〕

① テストの返ってきた母子の会話  
母「なんでこんなに点数悪いん?」  
子「…。」  
母「分からん所があるんだつたらちゃんと言いなさいよ。」  
子「…。分からん所なんてないわっ!」  
母「あつ、自分の分からん所が分からんのでしょ。」

子「…。」

②母「だって『之を知るを之を知ると為し、知らざるを知らずと為す。是れ知るなり。』って言うでしょ。」

③テストの復習開始

〔生徒の感想〕

- ・孔子のことばは、いろいろな場面で使えると思いました。
- ・実際に場面を自分で考えたり、他の人が考えたのを聞くと理解しやすくて、孔子の素晴らしさが分かった。
- ・昔のことばでは伝わらなくても、物語にするとよく意味が分かり、おもしろかった。

(6) 成果と課題 (○は成果を表し、●は課題を表す)

- 孔子のことばを現代に生かす試みの中で、学んだことが日常生活とつながっているのだという実感を与えることができた。
- 受け身の学習のみに陥ることなく、主体的に考える場面を作ることができた。
- 孔子のことばについて、表面上の意味理解にとどまっており、そこから場面設定をして話を作ったときに、かなりおかしな話になっているものもあった。孔子の言いたかったことを正確に理解させる必要があった。

### 3 研究の方法 (実践例 2)

#### (1) 対象生徒

中学校 1 年生 79 名 (2 クラス)

#### (2) 教材について

本単元は、広告のコピーについて考え、どのように発想をふくらませることによってそのコピーができていくのかを考えるものである。

学んだイメージのふくらませ方をもとにして、実際にコピー (21 文字のメッセージ) を作るという活動を最後に取り入れ、学びが日常生活とつながる場面を設定した。

#### (3) 目標

- 広告のコピーに表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げ、21 文字のメッセージにまとめて表現する。

#### (4) 授業構成 (全 6 時間)

- 第 1 次 コピーの工夫について考える  
・・・ 2 時間
- 第 2 次 広告が表現しようとしていることについて考える  
・・・ 2 時間
- 第 3 次 実際にコピーを作る  
・・・ 1 時間
- 第 4 次 コピーを交流する  
・・・ 1 時間

#### (5) 授業の実際 (ここでは第 3・4 次のみ示す)

<第 3 次 実際にコピーを作る>

第 2 次までの学習で、コピーの発想の仕方や、どういったテーマをもとに作られているかなど、既存のものについて学ぶ活動を行った。そこで第 3 次では、これまで学んだことを生かして実際にコピーを考える活動に取り組みさせた。

ここで、日常生活の中で生きる場面の設定として、作品を応募することのできるもの考えた。そこで、募集されていたもののうち、「21 文字のメッセージ」に応募することを決め、生徒に考えさせることとした<sup>2)</sup>。これは、「友だち・初恋」をテーマに電車にちなんだ作品を募集するもので、手紙・俳句・詩など形式は自由で 21 文字以内で表現するものである。最優秀賞、優秀賞の作品は電車の車体に、入賞作品は電車内の吊りスペースに掲示され、今年 3 年の卒業シーズンに大津の町を走るそうである。また、入選作品は作品集として出版されるということで意欲的に取り組んでいた。

作成手順は、まず第 1 次で学んだことを生かし、伝えたいテーマを考えさせた。次にそのテーマからのイメージをふくらませ、作品に取り入れることばを考えさせた。21 文字に収まるように工夫させた。次に応募作品一覧を示す (表 1)。

表1 応募作品一覧

応募作品 一覧	
1	会いたくて 欲しくないのに 買う切符
2	あなたと出会う 私とあなたを路線がみちびく
3	あの人と同じ時間に会えるのは、京阪電鉄だ。
4	アハハ 電車の待ち時間 君の声か届かない
5	いす座る、考えるのは、今日も友達のこと
6	一緒に降りる駅なのに貴方は走って消えていく
7	「いってらっしゃい」駅員さんは僕の大親友。
8	いつもの電車だいいじな人もここにいる愛の列車
9	いつも私を助けてくれる そんなあなたは親友
10	笑顔で席を譲る君のやさしい心に恋をした。
11	お元気ですか。僕は電車に乗っています。
12	おしゃべりが 盛り上がり過ぎて 乗りすぎす
13	思い出のせた電車道 停車するのはあいつの所
14	改札をくぐる友の背中にもまたあしたと言う。
15	カベドンで君を守るよ、でもドアドン
16	君がいる街に近づくと 反比例する心拍数
17	君と初めて出逢った電車は私の青春の1ページ
18	君と僕、いつもすわる cross seat
19	君と見た景色 君と聴いた曲 全部タカラモノ
20	君の駅に近づくと心臓が電車より激しくゆれる
21	急カーブ、よろける私と支えるあなた。
22	クラス、はなれてもずっと一緒に通いたいな。
23	ケンカの後の私の心は満員電車にゆられてる。
24	ケンカをしても、気持ちには揺るがない
25	ケンカをしても熱い友情はかたく結ばれている
26	恋も電車も逃る心と裏腹に徐々に変化し焦らず
27	このホームの黄色い線が君とのスタートライン
28	寒い朝、席をゆずれば体は寒いが心はポカポカ
29	車輪と列車、僕と友達 ずっと一緒
30	進んでる、電車と君との時間ね。
31	青春の甘くせつない冬の車窓
32	席のゆずりあい 友達思い
33	卒業までずっと一緒に通学路電車っていいな...
34	大事な友といつもの車両で待ち合わせ。
35	ちがう席でもつながっている。
36	違う道を行く友は電車で私を待っている
37	ちこくする私をいつもまわってくれるありがと。
38	次の駅であの人が入ってくるか 恋占い。
39	電車が人を運ぶように 僕も気持ちを伝えよう
40	電車から新しい世界を。
41	電車が止まるより早くホームの君に目が留まる
42	電車でしか会えないあなたは私にとって宝物。
43	電車で広がる友とのレール友とのレールは無限
44	電車とは人とのつながりを生む運命線路です。
45	電車に乗ると胸が痛い。君の隣にキレイな子。
46	電車のルートもあなたへの思いも変わらない
47	電車は、はなれていてもつないでくれる。
48	電車は心をつなげる、赤い糸。
49	電車も初恋も滋賀の京阪電鉄で!
50	電車も人もいつかは終わるそれまで楽しもう
51	ドアひらく 君との思い出 動き出す
52	途中駅さようならと友達が僕の感じるまた明日
53	友達がいるから電車に乗るのは楽しいんだ。
54	友達といつも同じホームで待つ時間は私の宝物
55	友達と通う通学電車。これからずっと永遠に
56	友達と遠く離れても 友情は近くにある。
57	友達との絆の証の発車ベル
58	友達のを借りても困難を乗り越えて行こう
59	友達は「青春」という時代に共に生きる仲間。
60	友達は僕を助けてくれるヒーローのようなもの
61	初めての想いを伝えよう。早く来い来い電車恋
62	初めての恋は電車で始まり電車が終わった
63	はなれていてもつながれる場所。
64	離れていても電車が絆をつないでくれる。
65	はやく恋、恋、恋。
66	人ごみの中、後ろの車両に君がいた。
67	ぼくたちの友情は、ねじ連結器のよう
68	僕達を乗せた恋と言う名の電車は今も進んでる
69	僕の親友は君だけでこれからもかわらない
70	僕の電車は思い出がつまったアルバムの様だ。
71	僕らの電車は友情のタイムカプセルだ
72	僕らの友情はこの電車から生まれてきたんだ。
73	僕らは、いつだって電車をつながっている
74	待ち時間、一人だと憂鬱、二人だと一瞬
75	満員電車で離れても 私達の縁は離れない。
76	夢の先へ まだまだ終わらぬ みんなの線路(レール)
77	連結しようよ、電車と 友達と
78	私が電車に乗るときいつかあなたも乗っていた
79	私と彼の恋が この電車が 駅からはじまる。
80	私の駅に、あなたの電車はとまるかな。

生徒たちは、それぞれ電車や友達・初恋といったテーマからイメージをふくらませて楽しそうに作成していた。審査結果の発表は2月下旬とのことである。私も、生徒たちと一緒に発表を心待ちにしているところである。

<第4次 コピーを交流する>

第3次で作った21文字のメッセージを一覧にして生徒に配布し、いいなと思ったもの3つの番号を理由とともに記入させ、投票を行った。生徒たちの選ぶ基準が、私がいいなと思ったものとはかなり違っていたので、なかなか興味深かった。ちなみに、生徒達の中では、1・15・65などが人気を集めていた。リズムの良さなどが評価されていたようである。

(6) 成果と課題 (○は成果を表し、●は課題を表す)

- 最後に「21文字のメッセージ」に応募するという事を単元の初めのうちから提示したことにより、最終目標に向かって、単元を通して意欲を持って考えることができた。
- 自分の作品が選ばれるかもしれないというわくわく感を持って、前向きに活動を行うことができた。
- イメージはいいものができていると思うが、もう一工夫が足りないと思われるものもたくさんある。推敲のしかた(より良いことばを探す、メッセージの前半と後半を対比させるなど効果について考える、文法的に不自然なものを改める、など)を指導する必要があった。
- 評価の基準を明確にしておく必要があった。それは、そのまま作品を作る際に、どういう作品がいいものなのかという基準をこちらが示しておかなければならないということにもつながると考える。

4 終わりに

本研究は、興味・関心を高め、学習意欲の向上をはかる授業づくりの工夫として、日常生活との関連を通して考察を行ってきた。

実践例1において生徒たちは、二千五百年前の孔子のことばを、現代にも生きることばとして受け止めることができていたのではないかと考える。そこから、古典とは現代とは全く無縁のものであり、学ぶ意義はないとするような考え方ではなく、興味・関心を持った学習にすることができたと考えている。

また、実践例2では、生徒たちは学んだことを生かして実際にメッセージを作成し、応募するという取り組みを通して、教室での学習と実の生活との結びつきを実感できたと考える。

しかし、それぞれの成果と課題で述べたように、まだまだ改善すべき点は多々あると思われる。学力の重要な要素のひとつである学習意欲をいかに高める授業づくりをしていくか、これからも追究していきたいと思っている。

#### <引用・参考文献等>

- 1) 中央教育審議会：「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」，2008，  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2009/05/12/1216828\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2009/05/12/1216828_1.pdf).
- 2) 京阪電気鉄道(株)大津鉄道部：「第8回 電車と青春21文字のメッセージ」，2013，  
[http://www.keihan-o2.com/topics/2013\\_21.html](http://www.keihan-o2.com/topics/2013_21.html).